

○ 9月5日(金)

## 府立学校視察(京都府立南山城支援学校)

---



### ○ 畑 委員長

京都府立南山城支援学校を訪問しました。教育委員として、多くの学校訪問の機会を得てきましたが、今回は少し特別な気持ちを抱いていました。様々な局面で、この学校の現状を心配される多くの声を聞いていたからです。木津川左岸の丘陵地に立地する本校に到着して、まず校長先生から学校の概要をご説明いただきました。一番に改めて認識したことは、この学校の通学圏の広さでした。スクールバスの運行路線図は、複雑に大きく広がっています。そしてもう一つは、木津川左岸と右岸の社会環境の違いでした。大阪や奈良と隣接して人口集中度の高い都市型の木津川左岸地域と、豊かな自然に恵まれ広域な農林村型の右岸地域。それぞれの持つ特質や課題を一つの学校が受け止めていることでした。この広範な地域を9台のスクールバスが毎日2往復して、児童生徒を送迎しています。

児童生徒数の増加に対応するために校舎の増築も進められていますが、限られた校地の現実は何ともし難く抜本的な対策には至りません。昭和56年4月開校当初の計画に比して、はるかに大きなボリュームで毎日の学校生活が運営されています。地域社会や保護者の方々のご理解とご協力をいただきながら、当面は教職員の皆さんの努力によって現状を乗り切っていただきたいと切に願うばかりです。可能な限り早い対応を計画し、特別支援学校の必要条件を充分に加味しながら、山城地域にふさわしいビジョンを整えたいと思います。

下校の時間を見学でき、児童生徒たちの元気に満ちた笑顔に出会って、私も元気になって帰路につきました。



### ○ 冷泉 委員

福祉事業所の迎えの車が多い下校時の安全確保は重要であると感じました。

児童生徒数の増加に対応するため、通学圏の見直しや近い将来の新設校についても、今後検討していかなければならないと実感しました。

児童生徒の皆さんの明るい笑顔と、教職員の皆さんの懸命な努力がとても印象的でした。

○ 9月5日(金)

## 府立学校視察(京都府立南山城支援学校)

---

### ○ 安藤 委員



開校当時と比べ、肢体不自由や医療的ケアを必要とする児童生徒の他、知的障害や学習障害への理解や関心の高まりもあり、特別支援学校への就学を希望する子どもたちの増加、実態も変容してきています。

施設や教育活動を拝見して、障害に応じた十分な広さの不足など、教育環境の改善が必要であるところも見受けられました。

特に、生活で直面する課題を克服できる力を育てる自立活動の場所、厨房やランチルームなども狭く、指導に当たる教職員の負担も大きいのではないかと感じました。また、登下校時の校門前では、福祉事業所の送迎車が多く、子どもたちが十分に乗車できるスペースも少なく安全面にも配慮が必要であると感じました。

保護者が特別支援学校を選ぶ一番の理由は、我が子が自立し社会の一員として生きる力を身につけることです。学習面や生活面で、一人一人にあったきめ細かい支援があることや個々の能力に応じた指導を特別支援学校に望んでいます。この特別支援学校では、子どもたちがよりよい学び合いや育ちができるよう、地域と連携した交流活動も取り入れながら、日々の授業や活動(支援・指導)に熱心に取り組んでおられ、しっかりと子どもたちに向き合っていることが子どもたちの笑顔からも感じ取れました。

今後は特別支援学校のもつ「きめこまやかな支援や指導」を維持・向上させるためにも、活動しやすい空間、安心・安全な学校生活がおくれる豊かな教育環境の改善・配慮に期待しています。